



計量後に行われた間伐材の搬出作業（早稲谷地内）

初日は37トンの間伐材

再生可能エネルギー事業 買い取りスタート 沼 仙 気

地元の森林資源を再生可能エネルギーに活用することを目的に、気仙沼市内の民間会社による間伐材の買い取り事業が1日、早稲谷地区で始まった。初日は山林所有者などが伐採した37トンの間伐材が持ち込まれ、関心の高さを伺わせた。

初日は、関係者約50人が出席してのセレモニーが、受け入れ場所

である旧早稲谷温泉近くの私有地で行われ、高橋正樹社長や菅原茂市長らがテープカットで事業開始を祝った。開始前から、間伐材を積んだ軽トラックなど20台以上が列をつくり、順番に換金条件となる計量を行った後、荷台から次々と木材が運び出された。

価格は個人で伐採した間伐材が1ト当たり6000円、森林組合などの事業者が3000円。個人の間伐材は、3000円分を地域通貨「Reneria（リネリア）」で支払う。1枚1000円として、この日から市内の仮設商店街など180店舗で利用できる。八幡地区内のスキの間伐材約530トを第1号で持ち込んだ、市内若狭の田村泰一さん(65)は「これまで捨てられていたものが有効活用され、エネルギーや森林の環境改善にもつながるので一石二鳥ですね」と話した。

同事業は、総務省の「緑の分権改革」事業の委託を受けた気仙沼地域エネルギー開発（魚町）が実施。山の手入れをしながら、森林資源を育成する個人や事業者を対象に、スギやマツなどの幹部分（直径10センチ以上）を同社が購入する。買い取った間伐材は木質バイオマスエネルギーとして、ビニールハウスのまきボイラーやチップとして農家や事業所に供給する。本年度の受け入れは全7回行われる。次回以降の日程は次の通り。時間はいずれも午前9時から午後3時までで、買い取りには事前登録が必要。問い合わせは同社（電話22・7338）まで。

◇受け入れ予定日▽
16日、1月26日、27日、2月16日、24日、3月9日